

# 乳鉢



## 近況報告 “ 家族湯にハマってます ”

大分都市医師会 高木 康宏

開業して1年が経過しました。近隣の先生をはじめ、諸先輩や大学の先生方そして家族に支えられながら何とか1年経ったなぁといった感じです。勤務医時代とは違った煩わしさが多いことに多少まいっておりますが、自分の決めた道ですので頑張っていけないといけません。皆さまの御指導、御鞭撻をよろしく申し上げます。

さて週末の息抜きは温泉に入ることです。家族湯めぐりにはまっております。特にお気に入りは長湯温泉の奥にあるあすかの湯です。(住所が久住になるので長湯温泉ではないようですが...) 家族湯は8室、それぞれに内湯と露天風呂が備わっています。男女別の大浴場もあります。やや茶色で少しぬるめの温泉です。詳しい効能効果はわかりません。日曜の午後、まだ日のあるうちに入浴すると湯に太陽光が反射し、キラキラと波の紋様が写し出され、それをポーッとながめているだけで何とも癒される時間を過ごすことが出来ます。連休ともなると県外ナンバーの車もよく見かけます。大分から車で1時間位です。県道412号線から長湯に抜ける道がきれいに整備されたのでより便利になりました。ポイント制で8ポイントたまると次回の入浴が無料になるのもうれしいです。

別府でのお気に入り家族湯は鉄輪のひょうたん温泉と、別府インター近くの桜湯です。双方ともお客さんごとに湯船の湯を張りかえます。冬場はお湯がたまるまで少し寒いのを我慢します。お湯は熱いです。私はすこしばかり水で湯温を調節しないと入れません。ひょうたん温泉の湯で娘の洗髪をすると見事にさらさらヘアになります。温泉の質が良いようです。こちらも詳しい成分は勉強していません。明礬温泉の家族湯も趣きがあります。秘密の洞窟の中の温泉といった感じでしょうか？独特の硫黄臭が効能効果をより引き立てているような感覚になります。

大分市内にもたくさんの温泉家族湯があります。日曜日たまーにゴルフをしますが、7時台のスタートだと2時には自宅に帰りつきます。そこから出掛けるのは市内の温泉。サマサマや三川の湯、アサヒ温泉、新しくできた南大分田中の天の川などなど、運動の疲れも取れてしまいます。

私の家族は娘が3人、7歳・5歳・3歳です。いつまで一緒に温泉に入ってくれるかななんて今から心配しています。

# 乳鉢

## イボとホクロ



大分市医師会 澁谷博美

今回、先輩に当たる二宮先生から聞き継ぐ形で書かせていただきます。

私は大分大学の皮膚科医局で形成外科と皮膚科の専門医取得後、国立別府病院そして大分岡病院を経て、昨年7月羽屋に開業となりました。

皮膚科一般から外傷や皮膚表面の腫瘍、眼瞼下垂などの治療を行っております。

開業すると勤務医の時以上に一人の方を長く見させてもらう機会が増えました。

その中でも予想以上に患者さんが多いのが足や指のイボ（尋常性ゆうぜい）です。ほとんどの方が、魚の目ができたと言って来院されますが、削除すると点状の出血を認めるイボです。とくに足底部は体重がかかるためか深部に入り込んでおり、難治の患者を認めます。基本的には液体窒素療法ですが、どうしてもだめな場合は局所麻酔を行い電気メスなどで焼却します。それでも再発を繰り返すことがあります。今年の皮膚科西部支部学会では、難治性の手指のイボに対し1日3回、1分間大きな声を出して笑うことにより治癒した症例を報告していました。そのほとんどが治癒までに6ヵ月以上はかかりましたが、イボ地蔵を信心することにより治癒したという報告もあるようですので、私も時々真面目な顔で、笑うことを指導しています。まだまだ評価はできませんが、なんとなく治癒率が上がったような感じもします。

次に多いのが足底や顔面のホクロや色素沈着です。足底部では小さな色素斑から心配される方が多く、その診断にダーマスコップという10～20倍の拡大鏡を用いています。これで完全に診断できるわけではありませんが、診断の精度は上がります。少しでも悪性が疑われる病変は切除し病理診断を行っています。

病院勤務に比べ院内を移動する距離が極端に短くなったせいか、体重の増加と持病の腰痛の悪化を認めるようになりました。明日こそ昼休みには歩こうといつも考えていますが、寒い日が続くためなかなか実行できない今日この頃です。

# 乳鉢



## 「愛犬自慢」

国東市医師会 二宮浩一

我が家に一年半前から、新しい家族が増えました。愛犬のシュガーです。ビションフリーゼという珍しい犬種です。以前キリンFIREのCMで大泉洋と共演したことのある犬泉くんのおかげで、ビションフリーゼも随分知られるようになりました。あと犬泉くんは志村どうぶつ園にもたまに出演しているあの真っ白いふわふわの毛の犬です。

私の住んでいる国東市にはビションフリーゼはシュガーだけしかいません(多分)。そして、今までいろんなところにシュガーと行きましたが、一度たりとも他のビションフリーゼに出会ったことがありません。犬に詳しい方は近寄ってきて「ビションフリーゼ初めてみました」とか「もしかして... このワンちゃん... ビションフリーゼですか?」と、とてもうれしそうに言ってくれます。そういう時はこちらも「ええ、まあ、そうですね」と少し優越感に浸れます。

ビションフリーゼは、もともとはフランスの貴族の愛玩犬として飼われており、毛が深く厚いので貴族たちは寒い時に身体を暖めてくれる犬として大切にされていたと言われています。確かに真っ白な毛で覆われて、全くといっていいほど抜け毛はありませんが、3週間に1度はトリミングにいかないと大変なことになります。アフロヘアーにカットされた頭の部分からのぞく目が見当たらなくなるのです。そういった意味では白いので汚れやすいし、しょっちゅうカットしないといけないし、かなり気を使わないといけません。以前四角い箱の中にシュガーが顔をつっこんだら、頭の形が四角になって大笑いしました。

しかしいつも元気で、人とも犬とも仲良くしたいシュガーは、我が家の中では一番の社交家で、我が家になくってはならない存在になってしまっています。運動不足の私の唯一の日課である犬の散歩のおかげで、少しはメタボ体型防止に役立っているはずですが、私が仕事から帰ってくると年頃の娘たちは極めて反応が薄いのですが、シュガーだけは大笑いでピョンピョン跳ねて、私に飛び付いてきます。

最後に、犬を飼っておられる方ならおわかりでしょうが、犬のしつけがこんなに大変とは思いませんでした。ただ可愛がってあげればいいのかと思っていましたが、とんでもありません。これからも試行錯誤しながら一緒に生活していきたいと思えます。ところで、ビションフリーゼを飼っている先生、いらっしゃいましたら是非ご一報ください。「ビション愛好会」でも作りませんか?



# 乳鉢



## くにさきチャリティードッグフェスタ

国東市医師会 楳本定秀

全く縁もゆかりもなかった国東で開業して8年。当初は知人・友人もほとんどいませんでしたが、今では職業も年齢も違う様々な人達と知り合い、一緒に活動をするようになりました。それは犬を通じてできた仲間です。

当地に引っ越してきてから間もなく、ひょんなことからチョコラブ（チョコレート色のラブラドル・レトリバー、よく盲導犬に使用される犬種です）の雌の子犬を飼うことになりました。無邪気でおてんばな子犬と格闘する（正確には、子犬の粗相と格闘する）毎日でした。そうした中、散歩の途中やペットサロンなどで他の犬の飼い主と知り合い、一緒に犬の散歩をしたり、犬抜きでパーベキューをしたりして楽しんでいました。

3年程前のこと、某地方紙に掲載された「国東のサイクリングロードは犬のウンチだらけ」という記事をきっかけに、犬の飼い主のマナーアップを啓発する活動をするようになりました。

『ウンチ旗立て大作戦（放置されている犬のウンチに「拾って帰ってね」という小旗を立てていくもの）』や小学校での『犬とのふれあい教室』を行うとともに、もっと広く啓発活動を行うために、平成20年から『くにさきチャリティードッグフェスタ』を毎年4月に開催しています。多くの犬の飼い主さん達に集ってもらい、マナーアップに関心を持ってもらうため、しつけ教室や警察犬・災害救助犬・盲導犬・介助犬のデモンストレーションやディスクドッグ・ショー（フリスビーを犬がキャッチする競技）、また国東警察署とタイアップした『犬のおまわりさん証』授与など、盛りだくさんの内容で行っています。来年も4月のどこかの日曜日に開催しますので、現在犬を飼っていらっしゃる方は勿論、これから飼ってみようかなと思っていらっしゃる方やただ単に動物が好きな方も、是非ともおご来場下さい（入場無料ですが「チャリティー」ですので、できればご寄付をお願いします）。色々な犬を見て触るだけでも楽しいですよ。人間の救護担当としてお待ちしております。（宣伝になってしまい、どうもすみません。）

# 乳鉢



## 50の手習い

2010石垣島トライアスロンに出場してきました

国東市医師会 廣瀬善弘

私は焼肉を食べお酒を飲んで深夜、ばかうまラーメンを食べて寝る。こんな長時間耐久は慣れ親しんだものでだれにも負けない自信もあった。

2008年忘年会50歳で何かに挑戦する事になった。友人は禁煙，ダイエット，フルマラソンと挑戦が決まった。当時，私は運動とは無縁な生活を送っていたが，テレビ番組で芸人が石垣島トライアスロンに挑戦する企画が放送され感動し無謀にも石垣島トライアスロンに挑戦することを決めた。トレーニング期間は13カ月，私の病院は道路はさんで海岸でいつでも泳ぐことができた。10キロほどのランニングコースも簡単に設定でき週に3回走った。また40キロ程度の短距離自転車コースも比較的安全なコースがあってトレーニング環境は良いのだが身体が動かない。重くて重くて。減量は病院の管理栄養士に依頼し病院食を続けた。酒は止められず毎日3合は飲んだ。体重は徐々に減ってランニング，自転車，水泳が少しできるようになった10月，循環器疾患が多くなり多忙のためトレーニングは隔日で1時間程度とればよいくらい。大会が4月下旬なので年を越すあたりから焦り不安さまざまな感情と現実に押しつぶされそうになりながらトレーニングだけは続けていった。

4月25日大会当日はりつめた空気の中3,000人がビーチで待機していた。そして水泳1.5kmスタート時間。時間がなんだかゆっくり流れているようで緊張感もなくスタート。混雑している所を泳いでいると足は引っ張られるし頭は叩かれる。それでも30分程で終了し，次の自転車に乗り40kmスタート，トライアスロン用自転車はフルカーボンで軽くスピードも速く気持ちよく1時間20分で自転車コースも終えマラソン10kmを走り始めた。足が重い。自転車後に走る事がとても辛く足が前に出ない。おかしいなあと思いながら徐々にゴールが近付くとなんだか大会が終わることの寂しさを感じながら走っていた。そして，ゴール。時間は2時間57分もかかったが50の手習いでトライアスロンに挑戦，禁煙，減量（72kg），を達成した。

石垣島トライアスロンに参加して多くの知り合いができ，話題が増え，わたしの人生観は大きく変わった。空気，水，風を感じ自分の気力と生きている事さえ感じるスポーツと出会えたことに感謝している。私はアスリートのように明日の記録を求めない。キョウリット，今日の時間を大事に一生懸命何かに挑戦したいと思う。これからも国東を走ったり泳いだり自転車に乗ったりし続けたいと思っている。

# 乳鉢



## 夏休みの一日

別府市医師会 内田 明 宏

夏休みの終わりに子供が今ハマっているアメリカプロレスWWEの観戦に東京両国国技館へ行きました。

待望のチケットに大喜びする息子を見て私は、高校時代一度だけの荷揚町体育館でのプロレス観戦を思い出しました。猪木、馬場程度しか知らず、プロレスに興味があったわけではないのですが、それは忘れられない経験となりました。まずミルマスカラスやドスカラス等のマスクマンは、予想以上に華やかでした。また子供心に、馬場の空手チョップや16文キックが利くのか？と半信半疑でしたが、馬場に触れてみて大きさにびっくりしました。私の手は、馬場の手の甲のみの大きさと同じでした。あんな手・足でやられたら利くかもと思直しました。そんな中、ふとリング反対側の見慣れた顔に気付きました。まさかの柔道部顧問でした。当時私は、柔道部員で、練習は厳しい上、休みは正月の2日間のみ。その日は練習をさぼって、友達とプロレスに出かけたのでした。“嘘やる～、気が付かれなければいいな”と思いつつ“先生も練習さぼって来てるんやけんいいや”とも思いました。まあ、翌日の柔道は、プロレスさながらパイプ椅子で殴られ、場外乱闘の悲惨な状況でした。

それ以来のプロレス観戦です。あたりはプロレスファンだらけで、子供がいつも着ているジョン・シナのTシャツを着ている人が目につきます。会場に入ると一種独特の雰囲気があり、大相撲の時とはまるで違います。“ここから選手が入ってくるんだな”“リングの硬さは？”等々考えながら開始を待ちました。私の前の席は、なんと小錦でした。痩せたとはいえやはり大きい。まばゆいばかりのライトと歓声の中、いよいよ選手登場です。一試合が終わると、いきなり皆リングサイドや花道に猛ダッシュをかけます。気がつけば息子も。選手とハイタッチをする。コールする。選手がTシャツを投げようものなら待ってましたとばかりに争奪戦に参戦するといった具合です。子供にとっては、本当に楽しく夢のような時間だったようです。選手も知らず、独特の雰囲気にのみこまれた私は、歳を取ったな～と痛感しました。

翌日は、おのぼりさん気分で東京タワーにのぼりました。約25年ぶりでしたが、エレベーター40分待ちの人気にびっくりしました。スカイツリーが見えました。東京も新しくなるんだな～と感じました。来年も行くことになりそうなので、次回は名前ぐらいわかるようになって、楽しもうと思います。

# 乳鉢



## 単純明快な診療を志す

大分県医師会 松山和弘

「腎臓」という臓器の英訳には、「renal」や「kidney」が用いられます。例えば、腎不全を「Renal Failure」としたり、「Kidney Failure」を用いたりすると統一性がない中、2002年に米国腎臓財団で腎機能の重症度に関する診療ガイドラインが、発表されました。この時に登場した用語が、「Chronic Kidney Disease : CKD」でした。何故、「renal」でなく「kidney」なのか？世界共通、誰もが理解できる用語として、米国の小学校でも習う「kidney」という単語の方が、ラテン語由来の「renal」より受け入れやすいとされ、ガイドラインに採用されたと言われています。

本邦も誰もが理解できるという概念を踏襲し、邦訳に「慢性腎臓病」が採用され「CKD = 慢性腎臓病」と呼ばれています。同様に「急性腎不全 : ARF」も2005年に提唱された「Acute Kidney Injury : AKI = 急性腎障害」という用語への変更が一般的になっています。これら用語の背景には、広く一般市民に分かりやすくが主題にあります。

医療機関の標榜科施設名称も同様の精神でなければならないと思います。2008年3月までは、外部に掲げられる標榜診療科については、「限定列举方式」でした。2007年に現施設を父より継承し、施設名称更新申請した時点では「腎臓内科」という名称は、医療法施行令で認める標榜科の中に無く施設名称として受理困難とされました。しかし、医療社会も変革の時期にあり、2008年4月に厚生労働省は、医療法を改正しています。医療の専門化が進む中で「患者さんや市民が自分の病状にあった適切な医療機関の選択を支援する目的」とし、診療科標榜も多様な表記を可能にしました。この改正を受けて、施設名称更新再申請し、厚生労働省の確認の上、ようやく認可された経緯があります。ただ単純明快到市民に分かりやすく！患者視点を考えた医療を行うために施設名称更新申請をしましたが、とても簡単な様で非常に不合理な医療社会構造に行き詰まりと違和感を当時強く感じました。全国に同様の葛藤を持たれた先輩医師の活動が、2008年4月の医療法改正に反映されたと思います。

医療現場でも診察室や処置室で用いられる医療用語の数々は、患者さん側には、理解困難な事が多い様です。国立国語研究所では、「病院の言葉を分かりやすくする提案」のWebサイト公開等と、近年、世界は、医療用語について認識を改める時勢にあります。毎日多くの患者さんや家族の方々との出会いがありますが、生涯にわたって理解が得られる“単純明快な診療を志す”所存です。

# 乳鉢



## ワールドカップの熱狂

大分市医師会 岡本 健二郎

皆さんこんにちは。この随筆の指名をいただいたのは、サッカーの南アフリカワールドカップで、わが日本代表チームが初のベスト8進出を逃したときでした。PK戦での惜敗に涙を流す選手たちを見て、感傷的な気分になったのは私だけではないでしょう。あらためて感じたサッカーの魅力について書きたいと思います。

大会期間中は夜遅くまでテレビ中継を見ました。観戦している各国の人々は、自国の代表チームがゴールを決めると、正気を失ったかのような大変な喜びようでした。サッカーには強く感情を刺激する何かがあり、それは恐らく他のスポーツより突出していると思います。的確に表現することは難しいのですが、言うならば強い「我々意識」ではないでしょうか。自国代表を応援する際、それはナショナリズムと表現できます。

1986年のメキシコワールドカップで、南米の雄・アルゼンチンは、マラドーナ選手のあげた2ゴールによりイングランド戦に勝利しました。当時、アルゼンチンはイギリスとのフォークランド紛争に敗れており、サッカーでのリベンジに国民は熱狂しました。二つのゴールのうちの一つは反則でしたが、喜んだアルゼンチン国民はあまり問題視していないようでした。

おとなりの韓国代表選手は、日本と戦うときには勝利を義務付けられています。国民の応援も他では見ないほど熱いものです。これは、この国の歴史から生じる感情がナショナリズムと結びつき、対日本戦に表れるためだと思います。

さてサッカー観戦の楽しみは、国の代表チームだけではなく、国内のクラブチームを応援することにもあります。日本ではJリーグですが、ここでの「我々意識」は、おらが街のチームに対する強いサポートとして表現されます。もし地元クラブチームがなければ、近隣のクラブを応援するしかありません。この場合はあくまでも「好きなチーム」であって、「我々のチーム」ではないのです。自然と熱の入り方が違ってきます。大分にはJリーグのサッカークラブがあります。「我々意識」を表現できる場があることはとても幸せなことだと思います。

# 乳鉢

## スキーずっこけ伝



大分市医師会 嶋津剛典

私が初めてスキーをしたのは、大学6年の冬であった。国家試験のことを少々気にしながら行ったことを思い出す。それまでスキーは一度もしたことはなかったが、卒業前にどうかと友人に誘われ興味本位で行くことにした。行く先は北海道ということもあり、初めての私は胸を躍らせていたものだったが、そんな気持ちはすぐに消え去った。

北海道に夕方到着し、そのままスキー場へ直行した。スキー場に着くころにはすっかり日も暮れていた。着くなり友人らは早速滑る準備に入ったが、初めての私は右も左も分からずうろちょろしながらバタバタと道具をレンタルし、何とか準備できた。問題はこれからである。スキーは初めてにも関わらず、いきなり山頂へ連れて行かれた。友人の「大丈夫、大丈夫。すぐ滑れるから。」という信じられないようないい加減な言葉に騙されたのだ。いざリフトに乗って山頂へ出発。最初はワクワクしていたが、徐々に山頂が近づくにつれ斜面が急になってきているのが目に入った。正直不安になってきたので友人に「本当に大丈夫かな？」と聞いたが、友人の返事は先ほどと同じ「大丈夫、大丈夫。」であった。山頂に着くなり友人らはさっさと滑降を始め、初体験の私だけ取り残された。目の前には恐らく斜度25度はあったであろう急斜面。スキーの基礎も知らない私は、もはや滑るというには程遠く、転がるという表現がまさにピッタリであった。必死の思いで下を目指したが、今思えばよく怪我もせず降りれたものだとつくづく感じる。

私のスキーデビューはかくのごとくかなり悲惨なものであったが、それにも懲りずそれからは毎年冬になると時々滑ってきた。とは言え15年近く我流で滑ってきたため、全く上達はしなかった。さすがにこれではいかんと思い、インストラクターに教を請うことを決めたのが今から4年前。それでもまだまだ未熟者ではあるが、何とかスキーの基礎は習得できたと思っている。3年前にバジテストの3級を取得してからは滑ることに対しての目標ができ、さらに楽しくなってきた。家族のひんしゆくを浴びながら、1級取得を目指しこれからも練習に励んでいこうと思う。

# 乳鉢



## 薬のpleiotropic effect

大分市医師会 阿部 克成

薬のpleiotropic effectという言葉がある。薬の効果の多面性という意味で、本来期待される効果とは異なる効果のことだ。人の体に対してマイナスの効果は副作用である。しかし、最近の薬剤にはプラスの効果をもつものも多く知られるようになっており、実際の臨床でも使用されている。パーキンソン病の治療薬であるアマングジンがA型インフルエンザの治療に使われているのも、pleiotropic effectによるものである。アスピリンがアルツハイマーの予防に効くというのもpleiotropic effectであろうか。降圧剤のなかで、レニン・アンジオテンシン系を抑制する薬剤には血圧低下作用とは関係なく、心保護作用、腎保護作用などを示すと言われているのもその薬剤のpleiotropic effectといえる。最近では、この種の薬剤に抗炎症作用、抗酸化作用などあることも報告されている。また、高コレステロール血症の治療薬であるスタチンも多くのpleiotropic effectが報告されている薬剤である。心不全予防作用、心脳血管障害抑制作用などは、多くの臨床試験ですでに認められている作用であるが、その他にも痴呆発症抑制作用、骨量増加作用、癌細胞抑制作用などがあることもわかってきた。今後、スタチンによる抗痴呆薬、抗骨粗鬆症薬、癌転移抑制薬としての効果も期待できるのかもしれない。

これらの報告をみると、アンジオテンシン阻害剤やスタチンなどの薬剤は高血圧、高脂血症などの疾患がなくても服用しておきたいと思ってしまうものだ。しかし、実際その薬を飲んでいる人がpleiotropic effectのおかげでぼけることなく、長生きをしているかというところではない。様々なpleiotropic effectが報告されると、薬剤の無限の効果が期待できると思える反面、実はこれは製薬会社の販売促進をもくろんだ経営戦略ではなかろうかと疑ってしまいたくなる。

しかし、本当に1つの薬剤で様々な領域にわたり良い効果をもたらせる薬があれば、これは魔法の薬となりうる。今後、新薬の開発が進むなかでそんな薬が現れてくるのかもしれない。pleiotropic effectはそんな夢を持たせてくれる話の1つであり、魔法の薬への第一歩であればと思う。


 乳鉢

## 近況報告



大分市医師会 岡 真一郎

この度、上野先生よりバトンを引き継ぎました、大分共立病院の岡です。

平成9年に長崎大学を卒業し、長崎大学第二内科に入局、3年目からは循環器内科医として長崎市立成人病センターに1年間、佐世保市の千住病院に2年間、諫早市森山町の唐比病院に1年間勤務したのち、平成15年より故郷である大分市に帰ってまいりまして、父嘉彦の開業している共立病院に勤務しております。

趣味は音楽鑑賞・・・といきたいところですが、家には子供（小学2年、幼稚園年中、いずれも男子）もあり、静かに音楽を聴ける環境にないため、最近では音楽を楽しむといえば「仮面ライダー主題歌集、昭和ライダー編」を子供と大合唱するぐらいです。かつて、かの名トランペッター、クリフォード＝ブラウンの鋭すぎるブレイに酔いしれ、ジャック＝マクダフの小粋なオルガンの音色に心臓をくすぐられていた学生時代が、とても懐かしく思い出されます。

大分に帰ってきた当初は、病院を上手く経営しようと気負ってしまい、何か目新しい、患者さんが集まってくるようなアイデアがないかと考えていたものですが、診療が忙しくなってくるとそのようなことを考える暇もなくなり、地道に内科診療を続けております。

同じ病院に7年間も勤務しておりますと、患者さんとの付き合いも長くなりました。顔なじみだと、いざ体調が悪くて受診されるときに、患者側も医者側もお互いの顔を見るだけでまず安心できるということで、当初と比べると随分診療しやすくなったなあと感じます。最近では長い間診察してきた患者さんを看取るときに、その方の御家族と外来受診のときの様子や入院中の出来事など、いろんな思い出話ができるようになり、これも医者としての醍醐味だなあと思えるようになりました。

長い間この地で地域医原に携わっていきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

# 乳鉢

## 而立，不惑

大分市医師会 上野 秀晃



随筆を書いて人様に発表したことはなく、特段文才もないため、何を書こうかと悩む振りだけは一人前に締切日が近づいた。私の周りで最近起こった大きな事といえばアルメイダ病院に2年半勤務させて頂いた後、昨年2月に父の医院を継承して開業したことである。

大分を離れ約20年間、関西、中国、四国地方と福岡県、Californiaで学生として学び、医師として働いた。広島大学腫瘍外科医局に在任中は、臨床と研究に明け暮れた。文字通り24時間365日患者さんと上司と研究に追われ、その日の予定も立たない日々だった。春夏秋冬の風を肌で感じることもなく過ごして来たと回顧する。余りの多忙に疑問を抱いていた頃、教授の命で米国に留学させて頂く機会を得、余暇に体を動かし自然を感じようとジョギングを始めた。無理を承知でフルマラソンに参加し完走した。その後、ジョギングを続けて4年余りになる。嵩じて100キロマラソンを走った。走るときには、時に厳しく時に優しい朝夕の四季を心身全体で感じ、無心であったり些事を考えたりする。

開業医、町医者になったので腫瘍外科の研鑽はほんの一握りの活用に留まり、一般内科？一般外科？一般整形外科？老若男女一般の診療に携わりたいし、そうすべきである。私が理想と現実の隔たりを埋めるのは困難であるが、一国の与党や総理大臣でも理想を実行するのは大変な苦勞の様子。時には大風呂敷を広げる必要もあろうが、歯車が狂うと後に嘔吐き呼ばわりされる世の風潮。誰しも賢人の有言実行の姿でありたいが、言ったことが守れないときにはどう責任を取るべきか？マスコミ報道では一人の責任を皆で評価する。時に1億数千万人対1人の構図のいじめが発生し、当事者の命を奪う事もある。七十五日経って人の噂が消え失せるのを待つ忍耐強い人も散見される。

宝である子供たちに平成日本の姿はどう映り、平成の歴史はどう伝えられるのだろうか。世に憂慮すべき問題が山積しているように見えるが、他人の客観的批判は皆上手にできる。しかし一寸待った、いつ自己の客観的評価を行ったか？自分の姿はいつ誰が見る？マラソンの晴々しいゴール写真なら見たが。大局的には世代を超えた理念を残せることが自己活動の評価になるのかと考える。四季其々の風と平成の風潮の中で、昨今は余り聞かない言葉であるが敢えて、「町医者」、「何でも屋」との呼び名を意識して仕事を続けたいと思う。